

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 5年 2月 24日

事業所名 社会福祉法人 聖の会 聖の会
障害児学童保育所あみ

保護者等数(児童数)19(21) 回収数19 割合100%

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	79%	21%	0%	・庭が狭いのが難点ではありますが、建物全体をよく工夫しておられると思います。	活動内容に応じて部屋の使い方や落ち着くスペース確保などを工夫していきます。 庭は狭いですが、隣に広いグラウンドや公園があるので、心身ともにのびのび過ごせるよう利用する機会も多く計画しています。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	84%	16%	0%	・難しいかもしれませんがもう少し職員多ければよいかもしれません	法令基準より加配した職員体制で子どもたちに対応しています。今後も研修を重ね、職員のスキルアップに努めていきます。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	58%	37%	5%	・出来る範囲の部分は考えながらよくされていると思います。 ・車椅子の子はいないので今のところ問題はないと思います。	建物構造上、玄関、階段はバリアフリー化できていません。借家上難しいところもありますが、今後必要と判断した箇所があれば検討していきたい思います。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	100%	0%	0%		子どもたちの願いを引き出しきれていないので、対話しつつ掘んでいけるように努力していきます。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	95%	5%	0%	・子どもの個性をよく見ていただいています。	それぞれの子どもたちの関心のある事、得意なこと等活かした活動や集団作りの視点や課題にチャレンジしていく活動を日々模索していますが、子どもたちの活動要求に追いついていないと感じることもあります。子どもたちと対話・共同しての活動計画作りにも取り組んでいます。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	42%	53%	5%	・特に必要を感じません。	施設間の交流ではありませんが、近くの公園で地域の子どもたちと日常的に一緒に遊ぶ機会があり、よい交流の場になっています。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100%	0%	0%		
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	100%	0%	0%	・話しやすい雰囲気があると思います。	定期的な面談時やお迎え時に日々の様子や子ども同士のかかわり、成長など共有していくように努力していますが、今後ともいねいに共通理解が図れるよう努めていきたいと思っています。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	100%	0%	0%	・話しやすい雰囲気があると思います。	いつでも相談できるような関係づくりと環境づくりにも今後も努めていけるように努力します。必要に応じて関係機関と連携したり、専門機関につなぐ等 保護者の安心につながるような支援に努めます。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	26%	53%	21%	・コロナ禍で難しいのでは？と思う ・コロナ禍では難しいので現状でいいと思う ・保護者会はないが、送り迎えの時に話せるので問題はない。 ・特定の保護者にしか会う機会がない。	ここ数年コロナ禍で開催は難しいところでしたが、状況を見ながら保護者会の開催が可能であればいっしょに検討、サポートしていけるように努めます。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	89%	11%	0%		第三者委員会や苦情解決のための申請書と回収BOXの設置について契約時にご説明させていただいております。事業所の対応に不安やご意見があった時に、安心して直接相談していただけるような信頼関係を築いていけるように努力いたします。寄せられたご意見につきましては、対応・対策について等スタッフ間で協議し、丁寧にご説明していきます。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	100%	0%	0%	・小さなことでもすぐ連絡をもらえるので安心です。 ・ラインやお便りも活用して伝達していただいている。	
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	100%	0%	0%	・あみ通信の内容はすばらしいです。	
	14 個人情報に十分注意しているか	100%	0%	0%		
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	74%	16%	10%	・今は感染症が怖いのですが、対策をしていただきほっとしています。 ・書面等で知らせていただいている。	定期的なマニュアルの見直しをつつ周知していけるように努めます。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	74%	21%	5%	・真面目に訓練に参加できたらもっと良いと思う。 ・過去1回しか記憶にないです。	避難訓練は定期的に行っていますが、いろいろな事案を想定しての訓練は十分にできていないので、計画的に取り組んでいけるようにします。子どもたちとも訓練の意味を共有しながらみんなで真剣に取り組めるようサポートしていきます。訓練計画・実施について保護者にもお知らせできるように努めていきます。
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	100%	0%	0%	・あみが楽しみで学校へ行けるようなものです。	
	18 事業所の支援に満足しているか	100%	0%	0%	・いつも柔軟に対応していただき、感謝しています。 ・遠いところまで迎えに来ていただき感謝しています。 ・自信の持てる取り組みを見つけられて喜んでいきます。	今後も子どもたちや保護者の願いや思いに応じていくことができよう、保護者のみなさんいっしょに子どもたちの成長をサポートできるよう、実践の充実にむけて日々努力してまいります。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせる実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 5年 2月 24日

事業所名 社会福祉法人妻の芽福祉会 障害児学童保育所 あみ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		庭は狭いが、隣に広いグラウンドや公園があるので、心身ともにのびのび過ごせるよう利用する機会も多く計画している。	
	2 職員の配置数は適切である	○		法令基準より加配した職員体制で、子どもたちに対応できるように努めている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		建物構造上、玄関、階段はバリアフリー化できていない。借家上難しいところもあるが、今後必要と判断した箇所があれば検討していきたい。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日の振り返りの中での検討事項については、翌日スタッフ間で協議し、今後の取り組みなど共有できるように努力している。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		日頃から保護者とのコミュニケーションをとるよう心がけ、なんでも相談できるような環境づくり努めている。保護者アンケートや相談等上がった件についてはスタッフ会議で検討し、保護者の安心につながるよう努力している。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			客観的な実践評価は必要。まだそのしゅみきが定期的に確立できていない。蘆摩川内市地域本部全体で今後どう取り組んでいけるか検討していきたい。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		毎月のスタッフ会議でテーマを決めての研修は重ねている。その他法人研修、放課後連、オンライン研修など実施。学んだあとの意見交流や感想レポートの記入などを通して、学びの共有、定着が少しずつ図れるよう努めている。	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			子どもの自身の思いや願いを引き出しきれていないので、対話しながらつかんでいけるよう努力していく。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		季節の行事やみんなで取り組む活動については事前にスタッフ会議で話し合って検討している。	日々の活動計画についても、毎月子どもたちと立案後チームで検討していけるようしくみを作っていく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			子どもと対話しながら月の計画案を話し合い計画表を作成していく。バランスよく活動内容が組み立てられる様に、集団作りやそれぞれの課題にてらし合わせながらスタッフの視点からも検討していく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日は学校後の短い時間なので、子どもたちの意向も聞きながら計画に応じて活動の提案はするが緩やかに対応している。自由に遊べる時間を保障する中で仲間とのかかわりを支援している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		それぞれの子どものたちや集団の課題、集団作りの視点も入れながら個別、小集団、集団で等活動の組み立てを工夫している。好きな活動をたっぷり楽しむことも保障している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日支援開始前に日案に基づいてそれぞれの動きや支援の留意点など共有できるようにしている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有している	○		短い時間ではあるが子どもたちの姿やかかわり方について意見交換しあう時間を設けている。協議が必要な事例については翌日の昼礼にて対応を検討し共有できるようにしている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている		○	記録をもとに一人一人の長期的な変化や成長を確認出来たりやかかわりのありかたを振り返ることができるようになっている。	記録のとりの方の要点を再度スタッフで確認・共有しあい、わかりやすく支援に生かせる記録の取り方に努めていく。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせで支援を行っている	○			ガイドラインについてスタッフみんなで学ぶ機会を作り、実践を客観的にとらえていく力もつけていきたい。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	○		必要な時に児発管・所長が参画し、その子にとってより良い支援のあり方を協議できるようにしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校との連絡・情報共有は必要に応じて早めに調整したり、確認できるように努めている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		いまのところ設備及び体制上現状受け入れは難しい状況にある。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		必要に応じて連携を図って行ける様に努めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		必要に応じて連携を図って行ける様に努めていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			藤原川内市発達専門相談員から実践に関する助言や研修を定期的に受け、日々の実践を客観的にとらえなおしたり、学びあう機会を重ねている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			事業所交流は出来ていないが、地域の子どもたちとの交流が生まれるように日常的に近くの公園に連れ出し、いっしょに遊ぶ機会を作っている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			自立支援協議会の子ども部会に定期的に参画し、他事業所と連携しつつ、地域の課題についても協議している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			お迎え時には活動の様子や仲間とのかかわり(ぶつかり合いも含めて)を伝えながらその時々々の状況や課題、成長を共有できるように努めている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			ペアレント・トレーニングというスタンスではなく、共に悩み、共感しながら事業所で出来る事、家庭で出来ることをいっしょに模索していきたい。必要に応じて専門機関と連携しつつサポートしていく。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			面談は定期的にも実施し保護者の思いを聴く機会を大切にしている。日常的にもいつでも相談できるような関係づくりと環境づくりに今後も努めていけるようにする。必要に応じて関係機関と連携したり、専門機関につなぐ等、保護者の安心につながるような支援に努めている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		コロナ禍で保護者会活動も休止していたが、状況を見ながら再開していけないかいっしょに検討し、サポートしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			第三者委員会や苦情解決のための申請書と回収BOXの設置について契約時説明している。事業所の対応に不安やご意見があった時に、安心して直接相談していただけるような信頼関係を築いていけるように引き続き努力していく。寄せられた事例については、今後の対応・対策について等スタッフ間で協議し、丁寧に説明していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			毎月通信を通して連絡事項、活動中での子どもたちの様子やかかわりの中での成長した姿、子どもたちから学んだこと等丁寧に伝えられるよう努めている。
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている		○		コロナ禍で地域との交流の機会(お祭りなど)が休止している。状況を見ながら地域本部全体で今後検討したい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		マニュアルの内容を定期的に見直し、周知できるように努めていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			避難訓練は定期的に行っているが、いろいろな事業を想定しての訓練は十分ではない。計画的に取り組んでいけるようにする。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止研修に積極的に(事業所内外)参加している研修後の意見交換や感想レポート記入などを通して自分たちの事業所に引きよせて考えあう機会を設けている。	スタッフにもセルフチェックリストを用いての振り返りにも定期的に取り組んでいく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			身体拘束についてスタッフ間で学ぶ機会を重ねていながら、丁寧に協議していけるように努めていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		現在利用児には食物アレルギーを持っている子どもはいないが、対象児が出てきたら対応していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			毎月事例があれば月報のヒヤリハット欄に記入し会議等で共有しているが、事例集という形式ではない。纏って事例集としていつでも共有できるようにしていく。